

「川崎高津診療所紀要」投稿規定

2020年2月1日制定

2023年4月1日改定

■出版の目的と特徴

川崎高津診療所ではこの度、オープンアクセス雑誌である、「川崎高津診療所紀要」を創刊することになりました。これは、オンラインジャーナルを通じて、診療に携わるあらゆる職種の皆様と日常の診療や研究活動を共有し、在宅医療に関するエビデンス作りに貢献することを目的としております。本誌は、原則として年2回の発刊（1月、7月）ですが、各号に関しては発行次第、個々の論文として川崎高津診療所ホームページ（<https://kt-clinic.jp/about/archive/20200207.html>）に pdf ファイルで掲載されます。なお、本誌は、国立国会図書館（オンライン）ISSN2758-6766 に登録されております。

■投稿論文

本誌の内容としては、主として在宅医療に関連する、1) 総説、2) 原著論文、3) 症例報告、4) 診療上の工夫やピットフォール、機器の開発などに関する短報（コラム）、5) 講演記録などで、英文・和文を問いませんが、それぞれのテーマに関して**独創的かつ斬新であることを重視**しております。論文の種類による文字数の制限はとくに設けておりませんが、目安としては投稿原稿がそのまま掲載されるとして最大10ページ程度と考えてください。

- 1) 総説 総説特集号（2021年第2巻）を参照してください。
- 2) 原著論文 原著論文号（2020年第1巻 No.1, 2）や No.22 を参照してください。
- 3) 症例報告 No.23 を参照してください。
- 4) 短報 No.3 を参照してください。
- 5) 講演記録 講演特集号（2022年2巻）を参照してください。

実際の投稿形式は、凡例(p3-5)を参考にしてください。

■投稿方法

投稿された論文は、Microsoft Word で作成された投稿形式に従って作成し、ビジョナリー・ヘルスケア出版宛にメール（info@kt-clinic.jp）に添付して送付してください。

■ 査読

本誌は、J-Stage では査読のない「研究報告・技術報告」に該当します。原稿内容に関して、編集部より修正・校正をお願いする場合があります。

■ 倫理

研究倫理、出版倫理に則った投稿をお願いします。詳細は、こちらを参照してください。

<https://kw.maruzen.co.jp/kousei-honyaku/blog/article-4.html>

■ 著作権

本誌に関わる著作権は、クリエイティブ・コモンズ(CC)表示 4.0 国際 (CC.BY.4.0)に準拠するものとします。詳細は、下記参照ください。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

■ AI 使用

OpenAI 社の ChatGPT などの AI システムを使用した場合は、謝辞のところでどのように用いたかを記載してください。

■ 原稿送付先・お問い合わせ

〒213-0001 神奈川県川崎市高津区溝口 4-1-3-4F

ビジョナリー・ヘルスケア出版 編集部

TEL:044-829-0103 FAX:044-829-0104

e-mail:info@kt-clinic.jp

肥満は悪くない (タイトル 14p)

松井英男¹ (著者名 12p, 所属はフットノート)

1 はじめに (見出し 12p)

肥満は「見た目が太っている」ことであり、その判断は多分に主観的である。肥満は単に体重が重いことだけではなく、体脂肪が過剰に蓄積された状態であるが、これは我々人類が飢餓状態を乗り切るために身につけたものが、栄養過多によって裏目に出てしまったものとも言える。肥満の中には、生活習慣病の原因となる「悪い肥満」があり、寿命にも影響をあたえる。近年、世界中で肥満者が増加していることは医療費の増大にもつながり、何らかの対策を講じる必要がある。肥満は遺伝以上に生活習慣が関係すると言われるが、結果をすべて自己責任に帰してしまうと問題の解決にならない。本稿では、肥満の形成における食生活の問題、脂肪細胞の役割、多臓器連関からみた病態、薬物治療などを中心に概説する。(本文 11p)

2 肥満の歴史的記録

古代縄文時代の土偶のひとつ「縄文のヴィーナス」(長野県茅野市出土)では、女性にはふくよかな身体の持ち主として表現され、神秘的な存在であったのと同時に、飢餓に備えて栄養を蓄積する必要があったことが想像される。

平安時代に太政大臣として活躍した藤原道長を描いた絵画(紫式部日記絵巻、藤田美術館蔵)をみると、道長は狩衣に身を包んだ恰幅の良い成人として描かれている(図 1 a)。実際、彼は糖尿病であったことが伝えられており、多量の水を飲み、背中には難治性の腫物があった。最後には身体も痩せこけ、失明したのちに 62 歳でこの世を去った。洋の東西を問わず、権力の座にあった人は美食家であることが多く、今でいう肥満と考えられる状態にあったようだ。

19 世紀の英国で最も太った男と言われている、ダニエル・ランバートの肖像画(ベンジャミン・マーシャル画)では、その佇まいからかなりの肥満であったことが想像される(図 1b)。実際、彼は 37 歳で体重 53 ストーン(約 335kg)であったが、さしたる病気もなく乗馬などをたしなみ、最後は動くのがおっくうになり自分を見世物にして大金を稼いだという。

¹ 医療法人社団ビジョナリー・ヘルスケア 理事長 (所属 10p)

図表の記載（レイアウトはそのまま反映されます 原則中央揃え）

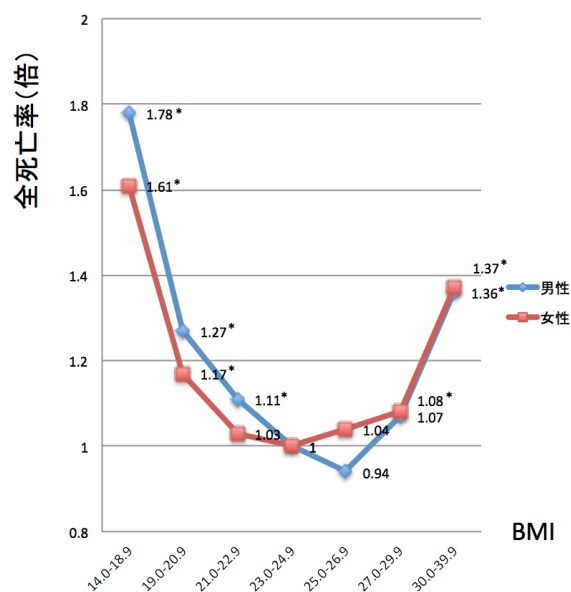


図2 日本人のBMIと全死亡リスク（文献4の図を改変）（図と説明10p下中央）

表1 FDAにより長期使用が承認されている肥満治療薬（文献19の表を改変）

（表と説明10p上中央 出典ある場合は明記してください）

FDA承認年	薬剤一般名	作用機序	月当たりの費用*
1999	Orlistat	消化管リパーゼ阻害	\$300-\$600
2012	Phentermine/ Topiramate	ノルアドレナリン+GABA受容体刺激, Kainite/AMPAグルタミン受容体阻害	\$125-\$150
2014	Naltrexone/ Bupropion	オピオイド受容体拮抗+ドパミン/ノルアドレナリン再吸収阻害	\$200
2014	Liraglutide	GLP1受容体作動	\$1,500
2021	Semaglutide	GLP1受容体作動	N/A

GABA: gamma-aminobutyric acid, GLP-1: glucagon-like peptide 1, N/A: Not available * 2021年2月現在の卸売価格

参考文献の前に謝辞ないしは利益相反

文献

- 1) 志渡晃一他. 北海道医療大看福社会誌. 16(1):25-28, 2020
- 2) ジャック・ペレッティ著. 世界を変えた 14 の密約. 文藝春秋 2018 年
- 3) NCD Risk Factor Collaboration. Lancet. 387:1377-1396, 2016
- 4) Suzuki S, et al. J Epidemiol. 21:417-430, 2011
- 5) Our World in Data. <https://ourworldindata.org/obesity>
(cited 2023/01/22)

- 著者が 3 名以上の場合は、他ないしは et al.を用いて省略可
- 論文タイトルは省略して良い
- ネット情報は、サイトの URL と引用日を記載
- DOI は必ずしも記載しなくて良い